



キャンディードと松下調教師（撮影：9月3日）

小島友実の あの馬の STORY



キャンディード

8月31日、中京競馬場で行われた中京2歳ステークスでキャンディードが勝利！今年から新設されたレースの初代王者としてその名を刻みました。それも、勝ち時計の1分19秒4は2歳の芝1400mのJRAレコード。出資会員の皆様、本当にありがとうございます。

キャンディードはトーセンラー産駒。1歳馬募集の頃から、「馬体の見た目が良いです」と管理する松下武士調教師からの評価が高く、昨年秋季には早々に満口になった馬でした。

育成時代を順調に過ごしたキャンディードは7月5日、小倉芝1200mでデビューしました。

「デビュー前から利用している社台ファーム鈴鹿の坂路での動きが良かったですし、栗東トレーニング入後も調教で動いていたので、勝ち負けになると思っていました。調教ではブートが早かったから逃げレースになるかなと思っていましたが、実際は3番手からの競馬になり、直線で前を捉える内容。屈かかないかなと思う位置から差し切り勝ち。能力の高さを感じました」

新馬戦の印象をこう振り返る松下調教師。「初戦の内容からハロン伸びる方が良いな」とこの判断から、2戦目は中京2歳Sへ向かいました。グリーンファームのホームレースに1週前追い切りに騎乗した中村将之騎手の「2歳のこの時期に1分12秒2〜12秒00のラップで坂路をまっすぐ進んでいけるものは完成度の高さを感じます」というコメントが紹介されていましたよね。松下調教

師によると中村騎手はこの時、こんな話もしていたそうです。

「現段階でのキャンディードの走りについて、『2歳馬の中に古馬が混じっているような印象』と話し、完成度の高さを感じていましたね。もちろん私もどんな競馬をしてくれるのか、とても楽しみにしていました」

その中京2歳Sでは中団からの競馬となりました。

「ペースが速かったので良い位置だと思っていました。直線は馬友一！（北村友一騎手）と声が出ました。記念すべき1回目のレースを勝って嬉しかったです。勝ち方が良かったですよね」

9月3日、放牧に出る前のキャンディードに栗東トレーニングで会う事ができました。デビュー前から担当している岡昇生持兼調教助手に伺いました。

「馬房では人懐っこい馬で大人しく、手がかからない優等生です。ボコを拾わないうえで前掻きして、催促してきますね（笑）。飼料はほぼ完食するし、現段階で脚元や内臓面に心配なところはないです。2戦目は暑い中でのレースでしたが、反動は出ず、健康そのものです。普段は、キャンちゃんと呼んでいます。牡馬ですけど（笑）」

岡さんによるとキャンちゃんは「人間が好き」との事。確かに取材中、ずっとこちらに視線を向けており、大切に扱われている事が伝わってきました。

松下師に現段階の評価を伺いました。「相当、能力が高いと感じています。2戦とも普通は屈かないと思う位置から

差し切り勝ち。勝負根性があるて、終いがしつかりしており、前に出て勝つという気持ちがあるのが良いですね。調教で乗っている時は気の悪さを出しません、下で曳いている時は頑固な面を出して暴れる事がある点が課題ですね。怪我につながる恐れがあるので、今後も気を付けていきます。他馬に比べれば完成度は高いですが、まだ2歳ですから緩さがありますし、これからまだ筋肉がついて成長していくと思います」

今後の展望や目標も聞きました。

「3戦目はデイリー杯2歳Sに向かう予定です。前走内容を見る限り、距離が伸びても大丈夫だと感じています。そして今年の大目標は朝日杯F.S。来年、クラシック路線かマイル路線か、どちらに進むかは秋の2戦の内容を見て決める事になると思います。今年は負けなしでいきたいですね。秋も連勝して、最優秀2歳牡馬を目指したいです。Gを勝てるポテンシャルを持つ馬に出会え、私もとても楽しみです。怪我なく成長させていけるように、牧場とも連携し、厩舎としてもしっかりとやっていきたいですね」

キャンディードは放牧先として昨年できた社台ファーム鈴鹿を利用しています。ここは国内唯一となる100%の直線坂路を有しており、松下調教師は「放牧中も素晴らしい坂路でトレーニングできる効果は大きい」と話していました。中京2歳Sでのキャンディードの走りは、これからの活躍を予感させる、序曲になると感じられるような強さがありましたよね。これからの活躍が本当に楽しみです。

profile

競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2024年「馬場のすべて教えます2（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。